



学校(がっこう) 計画(けいかく) & (と) 快適(かいてき)な 環境(かんきょう)  
**School Plan And Comfortable Environment**

の頭文字をとったもので、「学校計画と快適環境」という意味です。  
 また、「SPACE」は空間の意味でもあります。  
 みんなで快適に教室で過ごせるように考えてみましょう！



この表はある区の64の区立小学校で、平成19~21年の間の冬に実施された教室空気検査の結果です。湿度「とは皆さんが普段吸っているこの空気中にどれくらいの水分が含まれているかの割合のことです。実はその空気にもコップのように入る水の量に限界があり、室温が高いほど多くの水分を含めるようになります。この限界まで含むことのできる水分に対して現在含まれている水分の割合が「相対湿度」と呼ばれ、[%]で表します。相対湿度が30%を下回れば一般に「乾燥」しているとと言えるでしょう。ここで右の表を見てみましょう。

室内平均相対湿度の平均はかろうじて30%を超えていますが、一般的なビルで快適かつ衛生的に推奨される相対湿度である40~70%の範囲には及ばず、一番低かった日は13%ほどしかありません。多くの日で空気が乾燥していたと言えます。空気が乾燥しているとインフルエンザが流行する可能性が高まってしまいます。

	外気温度 (°C)	室内温度 (°C)	室内相対湿度 (%)	室内二酸化炭素濃度 (ppm)
平均値	10.8	18.9	38.3	1332
最小値	0.0	11.0	13.0	300
最大値	21.0	27.5	78.0	3600



では、この「二酸化炭素濃度」とは何でしょう？  
 平均値と比べて最大値はとて大きな値だということがわかりますね。  
 詳しくは次号でお話ししましょう

相対湿度を簡単に絵で表すと…?

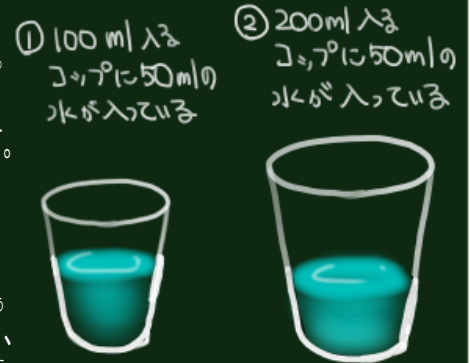
①のコップには100mlの水を入れることができ、②のコップには200mlの水を入れることができるとします。今、2つのコップには50mlの水が入っています。

①のコップではコップの半分まで、つまり50%水が入っていることがわかりますね。この時、相対湿度は50%ということになります。

一方で、②のコップでは、200ml入るところに50mlしか入っていないのでコップに対する水の量は25%ということになり、相対湿度は25%ということになります。

皆さんが教室の温度を上げると、水を入れることのできるコップの大きさが大きくなるのと同じように空気中に含める水蒸気の量も多くなります。

コップの大きさを大きくしても、水の量が変化しなければ、コップに対する水の量、つまり相対湿度は小さくなってしまいます。相対湿度が小さくなるということは空気が乾燥しているということです。



相対湿度以外では  
 まじもあけて、ウィルスを  
 外に出すのも大事!!

